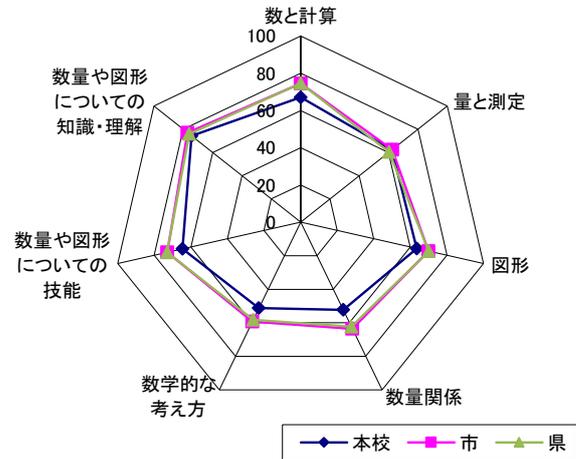


宇都宮市立桜小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.1	74.5	74.6
	量と測定	62.2	62.4	60.4
	図形	63.5	69.9	70.1
	数量関係	52.3	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	51.3	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	64.6	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	74.4	77.1	76.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○1万を超える数の数直線の1目盛の大きさを読み取る問題において、市や県の平均を上回っている。 ●繰り下がりのある3位数の引き算の問題において、市や県の平均を下回っている。	・計算については、ステップアップテストやドリル学習を学校や家庭学習で継続的に取り組ませることで、苦手なものができるように、できているものはさらに確実に身に付くようにさせていく。
量と測定	○重さや時刻を求める問題において、市や県の平均を上回っている。	・長さ、重さ、広さ、かさ、時間などの量の概念を確実にものにするために、身近なところにもものさしやはかり等を置いてすぐに使えるようにしたり、算数の授業以外の生活場面でも量の概念について話題にしたりする。
図形	●円の直径や半径を求めたり、三角形を作図したりする問題において、市や県の平均を下回っている。	・図形については、基礎的・基本的な技能の習得とともに、その活用や応用についての指導の充実を図る。
数量関係	●図やグラフを読み取ったり、立式したり、理由を説明したりする問題において、市や県の平均を下回っている。 ●4層分析において、AD間およびBC間の差が大きく、定着度が2極化傾向にある。	・様々な学習活動の中で、図や表、棒グラフなどを読み取る経験を増やし、正しく読み取る力をつけ、生活に生かせるようにする。 ・理由を説明する課題については、全体的に苦手であるので、今後も言語活動の充実を図り、言葉で説明する力をつけていく。 ・未定着の児童への習熟度別指導を充実させる。